

〈記入例〉 ※あくまでも書き方のサンプルとしてご活用ください！

様式1
(記入例)

2018年度 青少年ユネスコ活動助成
申請書

年 月 日提出

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
理事長 鈴木 佑司 殿

構成団体会員名 (ユ協・クラブ名)	平和ユネスコ協会	
団体代表者氏名	平和 太郎	印
青年会員申請 代表者氏名	[分野2の場合のみ記入]	TEL FAX 電子メール
事務担当者氏名	平和 花子 注：分野2の場合は青年会員	TEL FAX 電子メール
連絡先 (助成通知の送 付先を記載)	〒 様	

事業名称	ワークショップ「世界寺子屋運動を学び・行動しよう！」	
対象分野 (○をつけてく ださい。)	<input checked="" type="radio"/>	[分野1] 青少年ユネスコ普及活動事業(「わたしの町のたからもの」絵画展事業、ユネスコを広める出前事業・勉強会などの実施)
	<input type="radio"/>	[分野2] ユネスコ協会に所属する青年会員が中心となって行う社会的課題の解決に資する事業(申請者青年会員のみ)
	<input type="radio"/>	[分野3] ユネスコスクールや学校内ユネスコ活動とユネスコ協会の連携強化に資する事業(例：ユネスコスクール対象の活動発表会、学校教員向けのユネスコスクール研修会、ESDパスポート体験発表会など)
助成申請金額	50,000 円	

〈記入例〉 ※あくまでも書き方のサンプルとしてご活用ください！

【事業内容】

重点目標	1. 平和な社会の実現	2. ESD の推進	3. 「誰も置き去りにしない」社会造り	4. 生き生きとした地域社会の構築	5. 自然災害発生後の教育支援
アクションプランの(1)～(3)の何に当てはまるのか、○	○(1) ユネスコ理念の普及 (2) ユネスコ活動の担い手の拡大 ○(3) 支援者の拡充	○(1) グローバルな視野を持った次世代の育成・支援 (2) 生涯学習を通じた ESD の普及	○(1) ノンフォーマル教育支援 (2) 平和構築に向けた学びの支援	(1) 未来遺産運動や世界遺産の保全・普及活動 (2) 減災教育の普及	(1) 国内の自然災害に伴う子ども教育支援 (2) 当該地の教育復興支援

1. 申請事業が70周年ビジョン・ミッションの重点目標のアクションプランのどれにあてはまるか、○をつけてください。(複数選択可)

2. 今回申請する事業は、2018年度に新たに始めるものですか？	<input type="radio"/> はい ・ <input type="radio"/> いいえ (○をつけてください)
3. 今回申請する事業は、2017年度に本助成を受けていますか？	はい ・ <input checked="" type="radio"/> いいえ (○をつけてください)
4. 上記3が「はい」の場合、2017年度の実施内容からの主な変更点を記入してください。	わかりやすく箇条書きで記入
5. 実施期間	2018年10月13日 ～ 年 月
6. 実施場所	恵比寿公民館 市内各地で募金活動

〈記入例〉 ※あくまでも書き方のサンプルとしてご活用ください！

<p>7. 事業内容 *昨年度と申請内容が同一の場合は昨年度の成果も踏まえ、今年度の課題、目標・注力点についても記載してください。</p>	<p>市内の小中学生から公募し、50名を上限に、午前中は寺子屋講座を開催。寺子屋運動についての説明や映像、クイズなどを織り交ぜながら楽しく学ぶ機会とする。昼食後は市内数か所に分かれて、世界寺子屋運動に関する街頭募金活動に参加する。募金活動終了後は振り返りの会を実施し、世界寺子屋運動や国際理解・国際協力の大切さを肌で感じてもらう機会とする。〈※記入のポイント 計画段階でも結構ですので、具体的に内容が分かるよう記載してください。〉</p>
<p>8. 事業の目的と事業により解決しようとする課題</p>	<p>次世代を担う子どもたちに、世界寺子屋運動を通じて、世界の現状や世界寺子屋運動への理解を深めることによって、グローバルな視野を持つ次世代を育むことを目的とする。 子どもたちに学びの機会とともに実際に支援活動に協力した経験を持たせることは、大きなインパクトを与えるものだと考える。 〈※記入のポイント 自分の協会の課題ではなく、地域や世界が抱える課題と関連させて記載してください〉</p>
<p>9. 対象と人数</p>	<p>市内の小中学生 50名</p>
<p>10. 事業の実施体制</p>	<p>ユネスコ協会内に実行委員会を立ち上げ、事業を実施する</p>
<p>11. 他団体からの助成で実施した類似事業等があれば記載して下さい</p>	

12. 期待される成果

<p>＜目に見える成果（量的）＞ 本ワークショップを通じて、国際理解・国際協力への関心や世界寺子屋運動への支援者の拡大を若い世代から約50名ほど創出することができる。また、子どもたちへの波及はその親世代へも波及することが期待される。</p>
<p>＜目に見えない成果（質的）＞ 子どもたちに学びの機会とともに実際に支援活動に協力した経験を持たせることは、グローバルな次世代の育成といった視点で、次世代を担う青少年に大きなインパクトを与えるものだと考える。</p>

〈記入例〉 ※あくまでも書き方のサンプルとしてご活用ください！

13. 本助成では、同一事業は3年連続申請が可能です。助成がなくなったときに、今回申請する事業をどのように継続し、発展させていくのか、現時点でのお考えをご記入ください。

本ワークショップの成果をもとに、自治体やロータリークラブ等の団体に事業実施の為の支援を呼びかける。

14. 実施までのスケジュール

期日	内容
6月	実行委員会を立ち上げ
7月	実施日の決定、会場予約、講師の手配
7月下旬	募集開始（プレスリリース、行政の会報等で呼びかけ）
9月中旬	申込締切 事前資料の配布
10月初旬	ボランティア保険の加入等、募金箱や資料等の諸準備、事業実施のプレスリリース
10月13日	事業実施
10月下旬	アンケートや感想をまとめた報告書を作成、次年度の活動に活かす。